

全国大学コンソーシアム協議会

【設立趣旨】

近年、全国各地で大学連携、地域社会、産業界との連携による大学連携、大学コンソーシアムの取り組みが進められています。大学を超えた連携型教育・研究は、今やひとつの形態として大学教育の一角を担うようになりつつあります。

また、その地に根ざす大学はもろろんのこと、地域の歴史、立地、特性を背景として設立された地域組織としての大学コンソーシアムは、いかなれば高等教育機関と地域社会とが深く結びつき、大学の発展と地域の活性化を実現する取り組みでもあります。

現在、高等教育は世界的な水準で質の保証が問われ、教育・研究は社会の評価が問われる時代でもあります。言い換えれば、社会の多様な教育ニーズに応え、特色ある教育・研究を創造することが求められています。

このような時代にあって、世界的にも高等教育を構成する重要なシステムである大学コンソーシアムは、連携こそ実現可能な新しい学びと、知の社会還元を実現する可能性を有しています。

この様な流れの中で、発展段階にあるわが国の連携型教育・研究の発展を目指し、各地で培ってきた「地域力」を「組織力」に換えることにより、相互に内容を共有できる新たな研究交流の場を提供していきたいという考えのもと、「全国大学コンソーシアム協議会」を設置しました。

会場：熊本学園大学

主催：全国大学コンソーシアム協議会

共催：高等教育コンソーシアム熊本

開催日：2011年
9月10日(土)・11日(日)

第8回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム

メインテーマ：「地域新時代における大学の社会貢献」

2000年代も10年を過ぎ、21世紀の社会はどのようにイメージされ、形成されていくのか。その問いに一人ひとりが答えていこうとしていた矢先、東日本大震災が起こりました。いま日本は大地震と津波という未曾有の自然災害と、それが引き起こした原発事故という大きな試練に直面しています。あの3.11を境にして、社会の未来を見つめる私たちの眼差しは大きく変わらざるを得なくなったのです。

こうした中において大学や大学コンソーシアムにこれから求められる役割とは一体どのようなものなのでしょうか。従来のように高等教育や科学技術研究を持続的に推進し、発展させていくこと。加えて、人間の幸福をこれまで以上に増進する世界を実現するための共通善を模索していくことが大きな課題となると思われます。人類の未来に科学の進歩をいかに調和させていくか、あるいは、新たな思想や社会制度、社会技術をいかに開発・提案していくか。こうした問題は、いま大学が主体的に担う大きなミッションとなりつつあります。地域社会とそれを支える行政、企業、そして国を超えた市民との関わりを通して、大学は種々の課題に答えを見出し、いかんければなりません。

第8回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムは、このような時代認識のもと、「地域新時代における大学の社会貢献」をテーマとして開催いたします。大学と社会の新たな関係、また未来への展望・挑戦について語り学びあえる場を提供してまいります。

■プログラム

日付	時間	内容	講演者		
9月10日(土) (1日目)	11:00~17:10	ポスターセッション：熊本学園大学 14号館			
	11:00~13:00	受付(ポスターセッション)			
	13:00~13:05	主催者挨拶	全国大学コンソーシアム協議会代表幹事 八田 英二 氏 (公益財団法人 大学コンソーシアム京都 理事長・同志社大学長)		
	13:05~13:10	開催地挨拶	高等教育コンソーシアム熊本会長 谷口 功 氏(熊本大学長)		
	13:10~13:15		熊本学園大学長 岡本 恵也 氏		
	13:15~13:20	来賓挨拶	熊本県知事 蒲島 郁夫 氏		
	13:20~14:00	基調講演	一般財団法人化学及血清療法研究所理事長 船津 昭信 氏 自治体：幸山 政史 氏 熊本市長 (官界より講演予定)		
	14:00~15:40 (休憩10分)	シンポジウム (100分)	大学関係者：潮谷 義子 氏 長崎国際大学長 前熊本県知事		
			産業界：船津 昭信 氏 一般財団法人化学及血清療法研究所理事長		
			コーディネータ 高等教育コンソーシアム熊本会長 谷口 功 氏(熊本大学長)		
	15:50~16:10	文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室長 樋口 聡 氏			
	16:10~16:25	全国大学コンソーシアム協議会運営委員会報告(決算報告、会費徴収など)			
	16:25~17:10	ポスターセッション(コアタイム)			
17:10~19:10 (移動15分)	分科会 (120分) Aセッション	①地域を支える学生の力 (高等教育コンソーシアム熊本)	②大学コンソーシアム サテライトキャンパスの活用 (ネットワーク大学コンソーシアム岐阜)	③コンソーシアムの組織運営 (大学コンソーシアム石川)	
		19:25~20:55	情報交換会 (90分)	熊本学園大学 学生食堂	
11月9日 (2日目)	10:00~12:00	分科会 (120分) Bセッション	④大学間連携によって進める FD・SDの実効化 (教育ネットワーク中国)	⑤環境政策と地域貢献 (学術・文化・産業ネットワーク多摩)	⑥eラーニングの可能性 (大学コンソーシアム京都)



ふなつ あきのぶ
船津 昭信 氏
一般財団法人
化学及血清療法研究所理事長

【基調講演】「大学発の地場企業として65年-経緯と現状-」

化血研は終戦後の衛生状態の悪化を憂いた熊本医科大学太田原豊一教授の提唱で昭和20年末に設立された。その使命は「生物学的医薬品の開発と供給を通して感染症や疾病の予防と治療に貢献し国民の健康に寄与する」事であり、人体用及び動物用ワクチン、血液製剤の三事業について国内の3割を供給してきた。この間、昭和34年に①熊本保健科学大学の前身である「化血研衛生検査技師養成所」を開設し、②後に「城南病院」となる結核療養所保生園の経営を県の要請で引継ぎ、それぞれ医療技術者の養成や地域医療へ貢献している。発足以来65年、化血研本体で1,700名の職員が、熊本保健科学大学で1,600名の学生/教職員が学び働き、230床を抱える城南病院では300名の医療スタッフが患者さんをケアしている。大学の地域貢献には、教育や就職、学園都市としての経済効果など様々なものがあるが、大学発の「起業・創業」による例として、我々化血研についてその経緯と現状を紹介したい。

ポスターセッション、分科会詳細(9月10日(土) 1日目)

ポスターセッション(11:00～17:10)

北は北海道から南は九州まで全国各地の地域で、コンソーシアムの活動が盛んになり、それぞれが特色を持って産・官・学・地域と連携しながら取り組みがなされています。

このポスターセッションでは、各コンソーシアムが発行、作成した資料の展示はもとより、各コンソーシアムが取り組んでいる単位互換、インターンシップ、生涯学習、地域学、高大連携推進、シンクタンク機能などの様々な活動状況を紹介し、実践的な経験や取り組みなどのノウハウを共有し、参加者間の情報の交換の場として、提供いたします。

また、今回も企業ブースを設け、企業のアイデアを皆様の取り組みに活用できないか様々な情報を交換する場も提供いたします。

是非、ご関心のあるブースにお立ち寄り頂き、積極的な情報交換の場としてご活用ください。

第1分科会(高等教育コンソーシアム熊本)

【テーマ】地域を支える学生の力

この分科会では、大学の教育、研究に加えて第三の使命とされた社会貢献に関して、大学がコンソーシアムとして連携し地域の活性化に取り組むことの意義や可能性、多様な手法について考えます。

具体的には、医療福祉に関する学生たちの社会貢献や、大学と行政、経済界が協力して地域社会の構想を議論したり政策提言したりすること、学生運営による新しい就職活動のかたち、留学生支援や留学生参画のまちづくりなど多様な取り組み事例を手がかりに、大学が社会に対して発揮しうる貢献について意見交換します。

【第1分科会プログラム】

17:10～17:40	「学生運営を中心とした中小企業魅力発見と発信～学生の学生による学生のための中小企業魅力発信事業「リンカーンプロジェクト」～」 報告者:難波 祐美氏・リンカーンプロジェクト発表学生 (南大阪地域大学コンソーシアム)
17:40～18:10	「地域で活躍する留学生事例の報告」 報告者:太神 みどり氏 (大学コンソーシアムおおいた事務局 局長代理)
18:10～18:40	「コンソーシアム熊本の地域連携の取り組み」 報告者:石原 義光氏 (高等教育コンソーシアム熊本、熊本保健科学大学事務局長)・発表学生
18:40～19:10	討論及びコーディネータによるまとめ
コーディネータ	上野 真也氏 (熊本大学学長特別補佐・教授、高等教育コンソーシアム熊本企画・運営委員長)

第2分科会(ネットワーク大学コンソーシアム岐阜)

【テーマ】大学コンソーシアムサテライトキャンパスの活用

大学コンソーシアムでは、加盟高等教育機関の学生や社会人、高校生などに便宜を図り、授業や公開講座などを大学キャンパス以外のサテライト教室などで実施している団体が多い。各々のコンソーシアムによって、施設の形態や活用状況、学生・市民の評価が異なるものと思われるが、事例報告と情報交換を交え、今後の大学コンソーシアムサテライトキャンパス運用の糧とし、可能性を探る。

【第2分科会プログラム】

17:10～17:20	趣旨説明
17:20～17:50	「地域生涯学習拠点と大学コンソーシアムのあり方」 報告者:木村 光伸氏 (大学コンソーシアムせと協議会長、名古屋学院大学教授・リハビリテーション学部長)
17:50～18:20	「活動拠点カレッジプラザ及び秋田大学分校を活用した秋田県内大学等による教育資源提供活動の報告」 報告者:藤井 和明氏 (大学コンソーシアムあきた事務局長、秋田大学地域創生課長)
18:20～18:40	「岐阜駅サテライト教室を活用した事業展開と課題」 報告者:加藤 直樹氏 (ネットワーク大学コンソーシアム岐阜 幹事長、岐阜大学教授)
18:40～19:10	意見交換及びコーディネータによるまとめ
コーディネータ	加藤 直樹氏 (ネットワーク大学コンソーシアム岐阜 幹事長、岐阜大学総合情報メディアセンター教授)

第3分科会(大学コンソーシアム石川)

【テーマ】コンソーシアムの組織運営

2008年度から3年間続いた文部科学省の戦略的大学連携支援事業が終了した。この間、各地のコンソーシアムでは組織・財政・事業等が「肥大化」し、それを今後どのようにしていくかが大きな課題となっている。本分科会では、全国の組織運営状況・課題についての総論と、特色あるコンソーシアムの組織運営事例の報告をもとに、各地の実情と経験を率直に話し合い、これからのコンソーシアムの組織運営のあり方を考えていきたい。

【第3分科会プログラム】

17:10～17:20	趣旨説明
17:20～17:50	「全国の大学コンソーシアム組織の現状と課題」 報告者:田中 邦明氏 (キャンパス・コンソーシアム函館運営 会議座長、北海道教育大学函館校教授)
17:50～18:20	「さがまちコンソーシアムの組織運営の現状と課題」 報告者:古矢 鉄矢氏 (相模原・町田大学地域コンソーシアム 理事、北里大学学長補佐)
18:20～18:30	休憩(質問用紙回収)
18:30～19:10	討論・まとめ
コーディネータ	古畑 徹氏 (大学コンソーシアム石川教務学生専門部会長、金沢大学副共通教育機構長・教授)

分科会詳細(9月11日(日) 2日目) 10:00~12:00

第4分科会(教育ネットワーク中国)

【テーマ】大学間連携によって進めるFD・SDの実効化

FDの義務化以降、授業アンケートや研修会、授業公開の実施など、大学におけるFDの実施は常態化している。一方で「FD疲れ」という言葉も聞かれ、またSDについては組織的実施の実態は多様である。

本分科会では、地域の大学間連携がFD・SD事業に果たす可能性を探る。近隣の大学同士のつながりを軸とする、FDやSDに関する情報交換や共同作業は、地域全体の大学教育の質向上に寄与できるという視点から、広島・石川・北部九州の事例を紹介する。

【第4分科会プログラム】

10:00~10:30	「広島地域を中心としたFD/SD研修会の取り組み」 報告者: 矢田部 順二氏 (教育ネットワーク中国研修委員会委員、広島修道大学教授・教務部長)
10:30~11:00	「夜間開催とテレビ会議システム活用による連携FD・SDの試み」 報告者: 青野 透氏 (金沢大学大学教育開発・支援センター教育支援システム研究部門教授)
11:00~11:30	「九州地域におけるFD・SDを推進するネットワークづくり」 報告者: 田中 岳氏 (九州大学教育改革企画支援室准教授、九州地域大学教育改善FD・SDネットワーク(Q-Links))
11:30~12:00	討論
コーディネータ	後藤 寛氏 (教育ネットワーク中国研修委員会委員長、広島国際大学キャリアセンター長)

第5分科会(学術・文化・産業ネットワーク多摩)

【テーマ】環境政策と地域貢献

廃棄物の60%を占める「紙ゴミ」を「資源」として売却、また校舎の建て替えに伴う残置物の資源化、及び物流効果の向上による大幅なコスト削減とCO2抑制など、有価値化によりゴミの削減を行う。更に、自動販売機の適正台数化を行うことにより、どれほどの環境負荷を軽減でき、また社会に貢献できるか。ペットボトルキャップ運動の創設者による、世の中で「ゴミ」と呼ばれている物に対する新たな考え方を、一緒に考えてみませんか。

【第5分科会プログラム】

10:00~10:10	趣旨説明
10:10~11:00	「廃棄物の有価値化によるゴミの削減」 報告者: 鎌田 健司氏 ((株)環境総合研究会代表取締役、環境等貢献部会会長)
11:00~11:05	休憩
11:05~11:55	「自動販売機の新たな可能性について」 報告者: 鎌田 健司氏 ((株)環境総合研究会代表取締役、環境等貢献部会会長)
11:55~12:00	コーディネータによるまとめ
コーディネータ	錦織 達也氏 ((社)学術・文化・産業ネットワーク多摩事務局長・常務理事)

第6分科会(大学コンソーシアム京都)

【テーマ】eラーニングの可能性

e京都ラーニング(いーことらーにんぐ)は、平成20年度の戦略的大学連携事業により大学コンソーシアム京都加盟の10大学が、eラーニングシステムを大学間で共有化し、さらにコンテンツの共有化を目指して、受講者に最大の教育効果をもたらすことを目的とした履修登録機能付きのeラーニングシステムです。本システムを介して新しい単位互換教育、生涯教育の学習スタイルを提供しています。これらe京都ラーニングでの取り組みや、全国の先進事例を通じて、eラーニングの可能性を探ります。

【第6分科会プログラム】

10:00~10:10	趣旨説明
10:10~10:40	「全学的eラーニング展開 —これまでの取り組みと今後の展開—」(仮題) 報告者: 宇佐川 毅氏 (熊本大学大学院自然科学研究科教授・学長特別補佐(情報化担当))
10:40~11:10	「eラーニングシステムの共有化とコンソーシアム内での構築について」(仮題) 報告者: 阿部 一晴氏 (京都光華女子大学情報教育センター長・准教授)
11:10~11:40	「学認を活用した地域連携に向けて」 報告者: 中村 素典氏 (国立情報学研究所学術ネットワーク研究開発センター)
11:40~12:00	まとめ
コーディネータ	渡邊 康晴氏 (明治国際医療大学医療情報学講師)

第8回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム

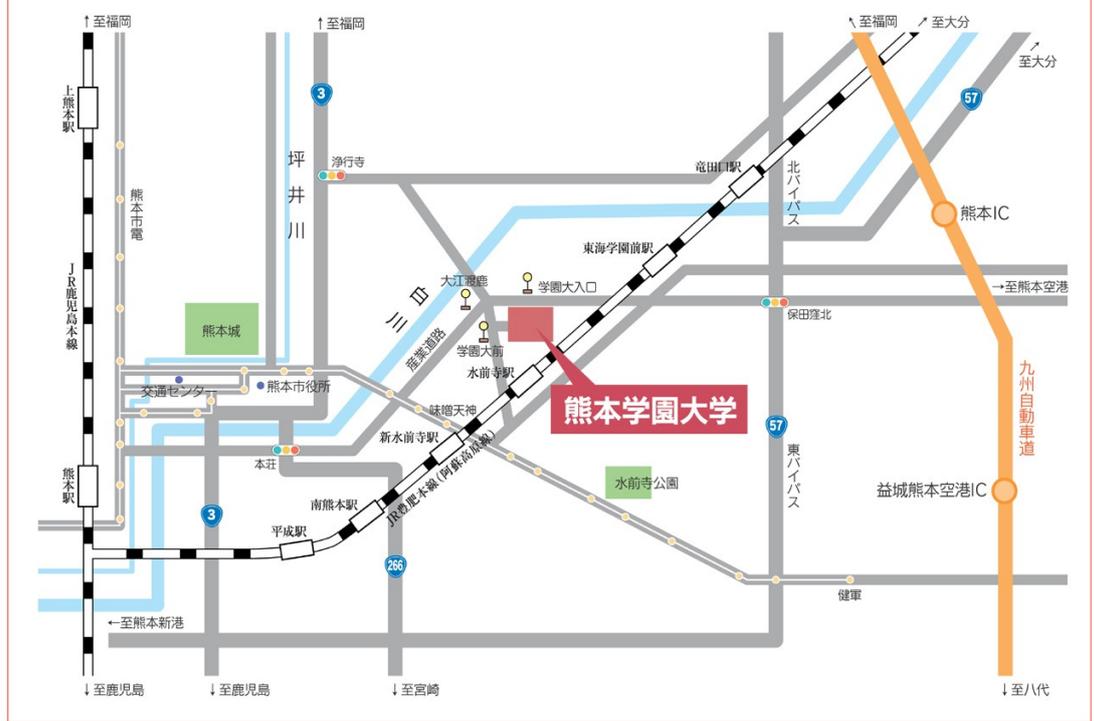
申込案内

会場アクセスマップ



〒862-8680 熊本市大江2丁目5番1号
 TEL: 096-364-5161(代)
 ・JR鹿児島本線熊本駅下車
 熊本市バス株式会社第一環状線「大江渡鹿」下車徒歩約5分
 中央環状線「学園大学前」下車すぐ
 ・熊本空港より
 車利用約40分
 ・熊本市電味噌天神下車
 徒歩約15分
 ・JR肥後本線水前寺駅下車
 北口より徒歩約10分

Access Map



全国大学コンソーシアム 協議会 ＜幹事会組織＞

- 学術・文化・産業ネットワーク多摩
- 大学コンソーシアム石川
- 愛知学長懇話会
- 大学コンソーシアム京都
- 大学コンソーシアム大阪
- 教育ネットワーク中国
- ネットワーク大学
コンソーシアム岐阜

参加費

申し込み区分	参加費	情報交換会費	報告書	合計
A: 参加のみ	3,000円	×	×	3,000円
B: 参加+情報交換会	3,000円	3,000円	×	6,000円
C: 参加+報告書	3,000円	×	1,000円	4,000円
D: 参加+情報交換会+報告書	3,000円	3,000円	1,000円	7,000円

申込方法

協議会加盟組織の方の申込について

全国大学コンソーシアム協議会加盟組織の方は、所属するコンソーシアムで参加者の集約をお願いしています。参加ご希望の際は、所属するコンソーシアムの事務局にお問い合わせください。

各所属の機関が当協議会の加盟コンソーシアムかについては、以下のページをご参照ください。

http://www.consortium.or.jp/category_list.php?frmCd=27-0-0-0

非加盟組織・個人の方の申込について

全国大学コンソーシアム協議会に非加盟の組織・団体の方で、個人でお申込の方は、以下のページを参照のうえ、申込書類をダウンロードし、必要事項を記載のうえ全国大学コンソーシアム協議会の事務局にお申込ください。

http://www.consortium.or.jp/contents_detail.php?frmId=1911

全国大学コンソーシアム協議会

事務局:
 〒600-8216
 京都市下京区西洞院通塩小路下 キャンパスプラザ京都
 大学コンソーシアム京都 担当: 澤岡・清水
 電話: 075-353-9100
 FAX: 075-353-9101
 Email: alljapan-consortium@consortium.or.jp

